



BEFORE

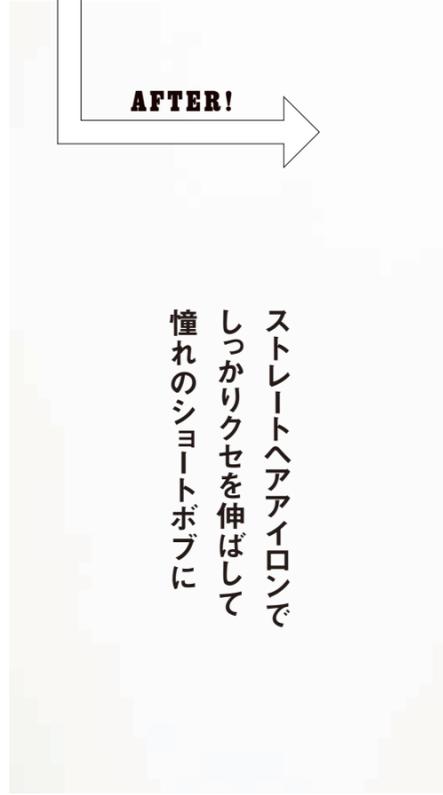


クセの状態

顔まわりは捻転毛。切れ毛になりやすく、ホワホワと短い毛が立ち上がっている。

後頭部に波状毛が集中、髪が溜まりやすい耳後ろやえり足のクセが特に強い。

縮毛矯正をかけて半年、カラー履歴はあるがダメージはない。髪は太め、毛量多め。



AFTER!

ストレートヘアアイロンでしっかりクセを伸ばして憧れのショートボブに



ANOTHER CASE

ヘアアイロンの入れ方次第でショートヘアの柔らかいシルエットが叶う

プロセス動画はコチラ!



フォームやシルエットがキモとなるショートヘア。クセ毛の方への提案は技術的に難しいが、道具次第で叶えることができる。それは、美容師としての武器に。



AFTER



BEFORE

半年前に縮毛矯正。現在、新生部が伸びて広がりがやすく、毛先がハネやすい状態。

縮毛矯正の匠が開発協力



Lily
東京都渋谷区神宮前
5-15-11 1F+2F
クセ毛・縮毛矯正・ヘアケアに特化した専門サロン。独自に縮毛矯正の薬剤開発も行っている。



大野道寛
おおのみちひろ。「Lily(リリィ)」所属のショートとボブ専門スタイリスト。1985年10月11日生まれ。東京都出身。山野美容専門学校卒業。縮毛矯正メニュー価格は5万円〜。

カドークオーラ プロフェッショナル ストレートヘアアイロンBI-G1P

縮毛矯正を極めるヘアアイロン新登場

縮毛矯正の匠『リリィ』が技術監修したストレートヘアアイロンが新登場! ショートとボブ専門美容師の大野道寛さんにその実力をかせてもらいました!

photo:Tetsuaki Nagao text:PREPPY

「きちんと、手早く伸ばす」プロフェッショナルツール
縮毛矯正サロンとして名高い美容室『リリィ』監修のもと、美容師卸のビューティガレッジと、理美容家電メーカーのカドークオーラが共同開発したプロフェッショナルストレートヘアアイロン「BI-G1P」を紹介したい。縮毛矯正という、薬剤性能に目が行きがちだが、「きちんと伸ばす」「時短で伸ばす」ためにはストレートヘアアイロンの性能がとても大切。今回、縮毛矯正×ショートとボブ専門のYOUTUBER美容師として人気を博している大野道寛さんの協力のもと、実際にその実力に迫ってみた。

POINT 2

パネを内蔵、均一に圧を

「上下のかみ合わせがよく、適度にプレートがしなるので、少しの力でもしっかり髪に圧をかけられます」

POINT 1

根元のキワまで攻められる

「角がなく、プレートを覆う本体部が薄くなっているため、根元のキワのキワまでしっかり攻められます」

使い勝手よく、「伸ばす」性能が格段にアップ!

POINT 4

温度調節の手間を軽減

「180℃まで約30秒という立ち上がりの速さや、最後に使用した設定温度を記憶し、再設定する手間がない点はいいですね」

POINT 3

3本溝構造で水蒸気を放出

「プレートの3本の溝が水蒸気を逃がしてくれるので、髪内部の水分量が一定に保たれ、つややかに仕上がります」

実寸大



カドークオーラ プロフェッショナル ストレートヘアアイロン BI-G1P【業務用】
カラー/クールグレー プレート温度/約100℃~200℃(10℃単位11段階調節) サイズ/約H239×W32×D40(mm) 質量/約186g(電源コード除く) 電源コード長/約3.5m 消費電力/38W 電源/AC 100-240V 50-60Hz メーカー希望価格/24,800円(卸価格別途)

ドライ

水洗

2液塗布

アイロン終了






前方に向かって髪を根元から乾かしていく。前髪のないスタイルなので、分け目は意識しなくてOK。やさしく髪を扱って。

放置時間は7分。経過後、お湯で薬剤を流し、やさしくシャンプーを。トリートメント処理も行い、水気をしっかりと切る。

2液はまんべんなく、全体にしっかり塗布。酸化をより進められるように、薄めの2液塗布後、濃いめの2液を順に塗布する。

アイロン施術で根元に立ち上がりがついたこともあり、若干ボリュームが残っているが、段差のないきれいなストレートスタイルに。

ドライカット

ドライ終了




シルエットを優先して毛量調整を。耳後ろの髪の溜まりはシルエットをくずしてしまうので、セニングでしっかり毛量調整しておく。

顔まわりに重さが残っているので、セニングを使って厚みを削るように毛量調整を。セニングを使う場合は髪が傷まないように注意。

POINT

ドライカット



チョップカットで毛先をおさめる
クセ毛が伸びることで毛先のバラつきが現れるので、ドライカットでは毛量調整より、毛先のおさまりを第一にチェック。頭部全体チョップカットで毛先をばかす。



根折れすることなく、クセがしっかりと伸びている。後頭部の丸みなどシルエットがきれいに整ったのもアイロンのおかげ。

スタイリング

ドライカット終了




ヘアアイロンを130℃に設定し、レイヤーに動きを。アイロンで仕上げることでよりツヤ感をアップさせることができる。

クセ毛の場合、髪が伸びてくればシルエットがくずれるのは仕方がないこと。1.5カ月に1度はカットするよう来店を促したい。





「クセ毛だからショートヘアは無理」と思っている美容師は意外と多い。お客さまの理想のスタイルを叶えるためにも、縮毛矯正時のヘアアイロンテクニックはぜひ修得しておきたい。

POINT



毛量調整は一切不要!
髪の広がりや縮毛矯正でおさめるため、毛量調整は一切行わない。逆に、短い毛を作ってしまうとアイロンで髪を伸ばしづらくなるので、できるだけ長さを残しておくこと。

ウェットカット

カウンセリング

施術スタート





縮毛矯正で伸びた状態をイメージしてカットする。えり足は長さがなく、伸ばせないでカットで調整。セニングでなじみよくカット。

クセの状態をチェックすることも大切だが、カラーやブリーチ、酸熱トリートメントの履歴などダメージを探ることはもっと大切。

前回の縮毛矯正から半年。髪が伸び、内側のクセ毛のせいで、トップやサイドにボリュームが出てしまっている状態。

POINT

ドライ&アイロン



水分量を管理しながらアイロンを
水洗後、全体を一度に乾かすのではなく、アイロンを当てるセクションごとにドライ。乾かしすぎないように8~9割を目安に乾かし、必ず少しだけ水分を残すこと。

1液塗布&中間水洗

ウェットカット終了





pH6~7、粘性の高い薬剤を使用。クセの強い場所から塗布。毛量が多いのでえり足はスライス薄め。放置時間25分。そのあと水洗。

トップに軽くレイヤーが入った前下りのショートボブ。クセ毛でボリュームが出て、シルエットが整っていないが、これでOK。

レーザーを使用すると毛先が先細りするため、縮毛矯正で傷みややすくなるが、ショートヘアは傷んでもカットできるので取り入れたい。



基本のヘアアイロンテクニック

顔まわり

バック

耳後ろ

施術温度






顔まわりの髪は細いので慎重に。うぶ毛も可能な限りプレス。アイロンの先端を使い、生えグセに合わせてアイロンをとす。

毛量が多く、クセが出やすいバックセクションは、5mmほどのデンマンブラシでブローしている感覚でしっかり熱を加えて伸ばす。

髪が溜まりやすく、クセの出やすい耳後ろは、スライス幅5~7mmでアイロンの先端やツインプラスを使って、しっかり伸ばして。

時短のために一定温度で施術を。基本は190℃設定。部位に合わせてアイロンをとすスピードを調節すれば、温度調整は不要。

大野道寛流秘ヘアアイロンテクニック

髪表面

丸みのつけ方

毛穴を見て伸ばす

熱置き+スルー






細かく分け取ってアイロンを入れるより、広い面を一度におしたほうが美しい仕上がりに。アイロンのヒーター部が長いほど有利。

無理に曲げようとしなくてもいいのだが、後頭部など柔らかいシルエットが欲しいときは、アイロンを返すようにして丸みをつける。

髪を引き出す方向は毛穴に垂直に。無理にクセつけようと違う方向に引き出すと根折れの原因になる。これで断然仕上がりが変わる。

しっかり伸ばすには「熱置き」を。①0.5秒プレス→移動→②0.5秒プレス→移動→③最後に根元からスルー。